

今週（12月22日から12月26日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

今週の無担保コール市場は、政策金利の引き上げに伴い、前週対比でレート水準が上昇する展開となった。
O/N物は、引き続き調達ニーズが堅調に見られるなか、出合い水準はこれまでと比べ概ね0.25%上昇し、0.727～0.728%が中心となった。その結果、加重平均レートは22日(月)～24日(水)までは0.727%、25日(木)は0.728%となり、26日(金)も概ね同水準での推移となった。
ターム物については、1W～3Mの幅広いレンジで出合いが散見された。

日銀当座預金残高は、22日(月)に国債大量償還・利払いにより4兆円以上増加し、473兆円程度からスタートした。その後は、財政資金の揚げや国債発行により471兆円程度まで減少したが、25日に財政資金のまとまった払いが見られたことで、再び473兆円台半ばまで増加して推移する展開となった。

●債券レボ市場

今週のGC O/N物は、概ね0.73～0.755%程度の水準で推移した。
SC個別銘柄では、カレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、1Yゾーンが軟調に推移した一方で、3Mゾーンが強含みで推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、不動産、その他金融業、食料品など複数の業態で大型発行が行われた。
市場残高は、24兆円台後半から始まり、25日(木)には25兆円台前半まで増加した。
発行レートは、0.75%以上で推移し、銘柄や期間により投資家の運用目線にばらつきが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り (%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レボレート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
12/22 (月)	50,402.39	2.080	157.63	0.727	0.740	4,729,700
12/23 (火)	50,412.87	2.040	156.75	0.727	0.738	4,718,900
12/24 (水)	50,344.10	2.045	156.18	0.727	0.735	4,711,100
12/25 (木)	50,407.79	2.045	155.80	0.728	0.743	4,736,500
12/26 (金)	50,750.39	2.040	156.43	0.727	0.741	4,732,300

来週（12月29日から1月9日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー（米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
12/29 (月)	決定会合における主な意見(12月18・19日分 8:50)				
12/30 (火)					12月のシカゴPM景況感指数 10月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数
12/31 (水)	大晦日				
1/1 (木)	元旦				NY, Euro, London祝日(New Year's Day)
1/2 (金)	銀行休業日				
1/5 (月)					12月のISM製造業景況指数
1/6 (火)	12月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	TDB3M 1/7発行 47,000億円	10Y 1/7発行 26,000億円	交付税借入 1/16借入 13,000億円	
1/7 (水)	1月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				12月のISM非製造業景況指数 10月の米製造業受注 12月のユーロ圏消費者物価指数速報値
1/8 (木)	11月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 12月の消費動向調査(内閣府 14:00)	TDB 6M 1/13発行 38,000億円	30Y 1/9発行 7,000億円	I+J+K* 借入 1/20借入 7,455億円	11月の米消費者信用残高 10月の米貿易収支 10月の米卸売売上高
1/9 (金)	11月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 12月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 11月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TDB 3M 1/13発行 47,000億円			12月の米雇用統計 9・10月の米新規住宅着工件数 1月のミシガン大学消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/29 (月) 日銀予想	▲ 1,100	1,400	300	国債補完	2,300		2,300	2,600	
12/30 (火) 弊社予想	▲ 500	▲ 5,500	▲ 6,000				0	▲ 6,000	
12/31 (水) 弊社予想			0				0	0	
1/1 (木) 弊社予想			0				0	0	
1/2 (金) 弊社予想			0				0	0	
1/5 (月) 弊社予想	7,000	▲ 7,400	▲ 400				0	▲ 400	2Y発行▲28,000 償還15,600
1/6 (火) 弊社予想	6,000	▲ 9,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	
1/7 (水) 弊社予想	5,000	▲ 63,000	▲ 58,000	共通担保	▲ 8,000		▲ 8,000	▲ 66,000	税・保険料揚げ TDB3M発行▲47,000 償還43,000 10Y発行▲26,000
1/8 (木) 弊社予想	3,000	2,000	5,000				0	5,000	
1/9 (金) 弊社予想	2,000	▲ 7,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	30Y発行▲7,000
週間合計	21,400	▲ 88,500	▲ 67,100	—	▲ 5,700	0	▲ 5,700	▲ 72,800	

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、引き続き堅調な資金調達ニーズが見込まれるため、0.725～0.728%程度での出合いが中心になると予想される。債券レポ GC T/N物は、年末越え物の取引でオファーの減少に伴い一時的なレート低下が見込まれるが、その後は再び0.73～0.75%程度の水準に回帰することが予想される。短国市場は、1月6日(火)に3M物、8日(木)に6M物の入札実施が予定されている。CP市場では、年末年始の休業期間に入る企業法人も多く、閑散なマーケットが予想される。

主要なイベントは、国内では、29日(月)に決定会合における主な意見(12月18,19日分)、1月8日(木)に11月の毎月勤労統計調査速報、海外では、1月5日(月)に12月のISM製造業景況指数、7日(水)に12月のISM非製造業景況指数、12月のユーロ圏消費者物価指数速報値、9日(金)に12月の米雇用統計などの公表が予定されている。（※尚、米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。